MEIJI MURA

明治村だより

Vol.101 2020 WINTER

CONTENTS

明治村の建築にみる日本近代青春群像物語 …2

A La Meiji-Mura

文明開花の「窓」…6

モースが見た日本の住まい …7

博物館明治村 協賛会員募集案内

博物館明治村では、歴史的建造物の修繕や展示など村内整備の充実を図るため広く皆様のご支援を募っています。

1. 法人会員の種類と会費（各1口あたり、消費税込）

○一般会員　10万円

○ゴールド会員　100万円

2. 会費の使途

明治村で展示・保存されている建造物の修繕や、村内の整備など公益目的事業費に充てさせていただきます。

3. 会員期間

入会日より1年間

（入会月の翌年当月末日まで）

4. 会員の特典

○会員証（記名式）の発行

○招待券の贈呈

○刊行物等の贈呈

○芳名の掲示

○法人名の銘板付きベンチの設置（ゴールド会員のみ）

5. 問い合わせ先

公益財団法人明治村　協賛担当

住所：〒484-0000

愛知県犬山市字内山1番地

TEL：0568-67-0314

E-mail：meiji-info@nrr.meitetsu.co.jp

協賛会員（令和2年11月15日現在）

敬称略：五十音順

ゴールド会員

大成建設株式会社

矢作建設工業株式会社

一般会員

アイカ工業株式会社
株式会社アシスト
株式会社伊藤園
株式会社エイムクリエイツ
株式会社大林組
株式会社関電工
株式会社鴻池組
サッポロビール株式会社
株式会社シーイーテック
株式会社スペース
ダイキン工業株式会社
大日本印刷株式会社
中京テレビ放送株式会社
東洋電機製造株式会社
一般社団法人ナゴヤハウジングセンター
日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社
株式会社日立製作所
ホーチキ株式会社
三井不動産株式会社
名高土木株式会社
株式会社森本組
株式会社ローソン
株式会社アイチケン
厚見建設工業株式会社
伊藤忠商事株式会社
株式会社NTTドコモ
岡谷鋼機株式会社
キリンビール株式会社
コクヨマーケティング株式会社
佐藤工業株式会社
柴山コンサルタント株式会社
株式会社銭高組
大興建設株式会社
株式会社竹中工務店
中部スターツ株式会社
戸田建設株式会社
西日本電信電話株式会社
能美防災株式会社
株式会社ファミリーマート
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
三井不動産ビルマネジメント株式会社
名鉄EIエンジニア株式会社
株式会社ヤシマキザイ
若松物産株式会社
アサヒ飲料株式会社
株式会社安藤・間
因幡電機産業株式会社
株式会社NTTファシリティーズ
株式会社オノコム
キリンビバレッジ株式会社
五洋建設株式会社
三幸エステート株式会社
清水建設株式会社
株式会社扇港電機
大成ユーレック株式会社
株式会社谷澤総合鑑定所
鉄建建設株式会社
飛島建設株式会社
西松建設株式会社
株式会社長谷工コーポレーション
株式会社フジタ
前田建設工業株式会社
三菱電機株式会社
名鉄環境造園株式会社
ユーシーシーフーヅ株式会社
アサヒビール株式会社
株式会社磯部組
株式会社魚津社寺工務店
株式会社大塚商会
鹿島建設株式会社
株式会社熊谷組
株式会社ザイマックス
サントリーコーポレートビジネス株式会社
株式会社新高土木
ソフトバンク株式会社
ダイドードリンコ株式会社
株式会社丹青社
東京海上日動火災保険株式会社
名古屋トヨペット株式会社
株式会社日建設計
ビジネスコミュニケーション株式会社
株式会社不動テトラ
三井住友海上火災保険株式会社
三菱ふそうトラック・バス株式会社
名鉄ビルディング管理株式会社
リコージャパン株式会社

表紙について

上／「引札（近藤商店）」

中／「隅田之観雪」1888年　楊州周延画

下／「浅草寺雪中」1881年　小林清親画

〈おわび〉明治村だより100号p7に誤りがありました

【誤】本物の価値を伝える、残す →【正】本物の価値を残す、伝える

12月 2020年

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1月 2021年

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

■は「きらめき 明治村」開催日（19:30まで延長開村）　■は休村日

「明治村だより」第101号（令和2年 冬号）令和2年12月15日発行

発　行　博物館明治村　〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地　電話(0568)67-0314　http://www.meijimura.com

製　作　大日本印刷株式会社

『明治村 だより』第102号発行のお知らせ

発行時期　令和3年3月中旬（予定）

申込方法　「明治村だより」第102号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料（含発送手数料）140円とともに現金書留にてお申し込み下さい。

明治村の建築にみる日本近代青春群像物語 1

隠れキリシタン教会堂と大工伊勢吉の夢

「大明寺聖パウロ教会堂」の見どころと謎

館長 中川 武

空から見た明治村

谷間の秘密天主堂の佇まいと驚きの内部

博物館明治村の敷地は現在約100万㎡あり、かなり高い丘陵が迫り、入鹿池の入江が深く切れ込んでいたりして変化に富む。その最深部の池に面した谷間に、桟瓦葺、真壁の民家風の建物がひっそりと建っている。

大きな切妻に少し庇をつけたように見える変形入母屋というより、変形切妻の正面に、母屋部と同様に、白漆喰の真壁に腰板張のポーチを回して開放的な入口としている。

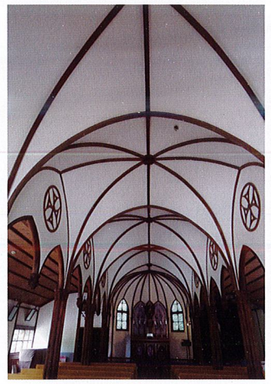
大明寺聖パウロ教会堂　正面

大明寺聖パウロ教会堂の農家を彷彿とさせる側面

正面入口の、吹放しの土間踏込ポーチとその屋根に載せられた鐘櫓が後の増築であることを示す古写真(※1)がある。この写真は、正面西北側に鉄筋コンクリート造の新教会堂が写っており、旧木造教会堂は一九七五年に解体されたので、その直前のものであろう。中央入口は両引き板戸であるが、外回りを見るかぎり、梁間の大きさにもかかわらず極力棟の高さを押さえたかのような大きな屋根以外はあまり目立つ特徴はない。つまり解体され、一九九四年に移築される前の建物の外観は、まさに民家のようなものだったといえよう。

ところが一歩中に踏み込むと、これは何だ！という驚きがある。内部はあまり変更を受けていないようだ。片側五本の束柱による尖頭交差リブヴォールトの、いわゆるコウモリ天井と呼ばれる印象的なゴシック様式の天井が眼に飛び込んでくる。即ち内部は三廊式の平面で、身廊も側廊も床一面の板敷で、聖体拝領台を介して内陣と分けた外陣はやや長方形のバシリカ型。側面両側の中央に出入口を設けていたが現状では閉じられている。

身廊部の列柱を大アーチで繋ぐリブは束柱の柱頭から木肌のまま立ちがるが、ヴォールトの曲面は竹を籠状にあみ、土壁に白漆喰を塗り込めている。また身廊立面は単層構成であるため、柱間の壁は二連の小尖頭アーチで支えているが、アーカンサスの葉飾り彫刻を付けた柱頭から下の柱を切り落としている。そのため、どこか宙ブラリンのような


「コウモリ天井」が正面祭壇まで続く

身廊部の尖塔アーチ

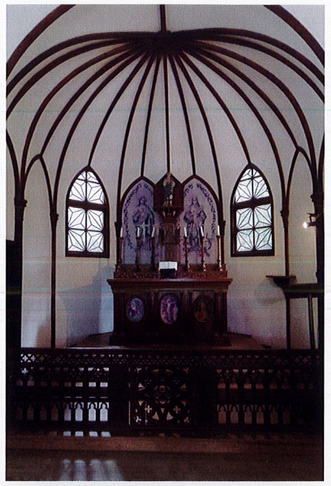
不思議な感覚をもたらしている。本当はもっと高い天井と光が欲しいところだが、細い交差リブと白いヴォールトによって、確かにここに柱を入れれば煩雑になり、木造ゆえに可能になったアクロバティックな操作だといえる。しかし、この小空間に躍動的な魅力を与える要因になっているのではないか。

八本の束柱から八本のリブが立ち上がり、天井の頂点に木彫のメダリオン、そして柱間の壁には大き目の円型にマルタの十字を入れた木製のメダリオンを飾る。これらのデザインは大浦天主堂の系譜を引くものである。側廊が曲面の棹縁天井となっているのは屋根が低いためであろうが、これによって身廊部の天井が際立っているともいえる。

内陣は外陣より一段高く、聖所のアプス(※2)の床を更に三段高くして祭壇が置かれている。尖頭迫持天井に続いて六連の尖頭アーチ窓が並び、実際二面だけがガラス窓で残りは漆喰塗込めの無目窓であるが、ゴシック様式らしい演出となっている。

内陣の左側は聖具室で、右側には、この教会堂のもう一つの注目すべき特徴であるルルドの洞窟がある。聖母マリア信仰はカソリックには根強いものがあるが、古くは金星になぞらえられたマリアを礼拝するために金星が出る方向にアプスを構えたこともあった。一八五八年、フランス・ピレネー山麓の町ルルドの、とある洞窟にマリア出現の奇跡が伝えられ、世界中の教会の敷地に岩山の洞窟をつくり、そこから出現したマリア像が礼拝の対象となっている。マリア観音を秘蹟として信仰を繋いできた隠れキリシタンの伝統が強い長崎地方ではルルドの洞窟は特別の意味があったのではないだろうか。下五島福江島にも井持浦―ルルドにおける聖母御出現―があるが、大明寺の場合、側廊部内陣に取り込み、しかも竹籠に土壁と黒漆喰で岩山をつくり、マリアを出現させている。

これらの特徴をアレコレ考えていると、大明寺聖パウロ教会堂は、西洋建築様式を日本の伝統木造技術で実現したものという従来の理解だけでは追いつかないように思われてきたのである。


祭壇

ルルドの洞窟から出現したマリア像

キリスト教伝来と殉教の歴史

二〇一七年九月に伊王島大明寺を訪れてみた。

RC造の新教会堂の周辺には数戸の民家があり、教会堂の内部を見せてもらうためと、話しも聞きたいので、暫く待っていたが、ついに誰にも会うことができなかった。その後五島列島などを少し歩き、大明寺聖パウロ教会堂が建立された明治十年代という微妙な時代を想像してみた。勿論それは難しいことだが、江戸期の禁教時代だけでなく、維新後も激しい弾圧が続き、明治六(一八七三)年の解禁の後は、遠島などから帰村した人もいたが様々な迫害が残っていたという。農山漁村部から人口減少が続いていく中でひっそりと佇む古い教会堂の背景の空も海も美しく澄んでいただけに余計にこの地域の明治十年代の様子を想像せずにはおれなかった。

十六世紀中頃のキリスト教の伝来と十六世紀末の秀吉、十七世紀初頭の家康による禁令、そして十九世紀中頃のペリーの来航を契機とした開港によって各居留地にキリスト教会堂が建立され、夥しい殉教を潜り抜けた隠れキリシタンの秘蹟や作法の再発見が伝えられている。特に大浦天主堂(一八六四年)が長崎周辺の、それまで潜伏していたキリスト教信仰にもたらした影響が大きかった。そこに安置された聖マリア像やフランス人司祭の存在が、七代伝承の崇敬と心の拠り所を確信させ、たとえば改心もどしのような激しい精神の劇をもたらしたともいえよう。

しかし維新後も禁教の断罪が続いたこと、そして明治六年の禁教令解除によって、流刑や牢獄から村に戻った人をある一方で、人の眼を憚る雰囲気が残っていたのであろうか。明治十年代は、外観上もあきらかにキリスト教天主堂とわかるものから、大明寺聖パウロ教会堂のように、外観はひっそりとした民家風で、内部は鮮かにゴシック様式を印象付けるといった工夫が凝らされているものもある。殉教の苦い記憶は醒めやらぬが、待ち望んだ自由な信教の喜びも留めようがない。そうしたこの時代特有の気分を想像させずにはおかないのが大明寺聖パウロ教会堂かもしれない。

大渡伊勢吉という大工の夢

この教会堂の建築は、フランス人宣教師ブレル神父の指導のもとに伊王島舟津生れの大工大渡伊勢吉(おおわたりいせきち)が棟梁として建てたものである。舟津村には仏教徒が多く、彼もそうだった。弘化元(一八四五)年生れ、二十才の頃大浦天主堂で働いている。また明治十年には英人灯台技師ブラントンのコンクリート造灯台官舎の洋風建築の建設にも参加している。彼の事績は今のところそれ以上詳

事前予約制「建物ガイド・イマーシブ」「偉人ガイド」を開始

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止の観点から、春からの開催を見合わせていたガイドを事前予約制とし、10月1日より受付を開始しました。

まるで明治にタイムトリップしたかのようなガイドをお楽しみいただける「建物ガイド・イマーシブ」、「明治偉人隊」の偉人が自ら縁の建物を案内する「偉人ガイド」は、従来のガイドとは一線を画す体感型の内容で、ご参加いただいた方々にお楽しみいただいています。

ハイカラ衣装館の営業を一部再開

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止の観点から休止していた「ハイカラ衣装館」の営業を10月1日より再開しました。

当面の間は受付人数を制限するなど、感染対策を徹底しながら営業を行います。

「明治村音楽祭」を開催

10月の土日、11月8日、15日に「明治村音楽祭」を開催しました。

文明開化により日本に入ってきたオペラや舞踏会、リードオルガンなどの音楽や楽器、そして西洋の音楽を取り入れたことにより日本で新たに生まれた翻訳唱歌など、明治時代の人々が楽しんだ多種多様な音楽を、学芸員の解説とともにお楽しみいただきました。

蒸気機関車のオーバーホール基金を設立

鉄道の日である10月14日より、明治村で動態展示をしている蒸気機関車（SL）12号・9号の「蒸気機関車　オーバーホール基金」を設立しました。SLの今後のオーバーホール（大規模修理）に向けて広く寄附を募集し、鉄道・SLを愛する方々や明治村のファンの皆様にご支援をいただくことで、明治時代に活躍したSLを長く保存していくことを目的としています。

ご支援をいただいた方には、ポストカードやレールを使用した文鎮、特別イベントへのご招待など、金額に応じて返礼品をご用意しています。

「明治村音楽祭　リードオルガン＆バンドネオン『風の調べ』」を開催

明治時代の音楽や楽器を紹介し、体感していただくイベント「明治村音楽祭」のテーマの一つ「リードオルガン＆バンドネオン『風の調べ』」を11月8日に聖ヨハネ教会堂にて開催しました。事前応募制の本イベントでは、当選された約50名のお客様に、リードオルガン奏者・中村証二氏と、バンドネオン奏者・門奈紀生氏をはじめとしたタンゴ楽団・アストロリコの皆さんによる演奏をお聴き頂いたほか、明治村村長・阿川佐和子氏と明治村館長・中川武とを交えたトークをお楽しみいただきました。

びらかにできないが、長崎港からほど近い、長崎湾内の小島（※3）に立つこの教会堂の、驚くほど多重な時代の陰影と地勢的背景は、同時に大工伊勢吉のものでもあっただろう。

大明寺聖パウロ教会堂を素直に見れば、素朴な農家風の外観といい、せっかく西洋ゴシック様式のキリスト教会堂の顕著な特徴である交差リブ・ヴォールト天井を木造で実現しているのに、ゴシックの大事な特質の、高い天井から降り注ぐ光を取り入れることはできていない点などは在来技術に縛られた地方大工の限界のように見えてくるのかもしれない。

けれども私が初めてこの教会堂を明治村苑内の最深部で見た時の、秘密天主堂にしては、すぐに明らかになってしまうキリスト教会堂である内観と外観の意外な組み合せに感じたものは別のことであった。伊王島にかつてこの教会堂があった、誰もいない海が見える緑の谷間に佇んだ私が見たものは、ほとんど寂しい悲しさと共にしか見ることができない夢であったと思う。この時代の、この地域の人々にとっては殉教の記憶は消えることがなかったであろう。また幻のように出現した大浦天主堂は、少なからぬ憧れの見直しを与えたことも確かであろう。しかしそれらを、遠くに白い波が重なる碧い海を眺めるように見ることができたから、この教会堂は生まれたのではなかったか。伊勢吉は平凡な仏教徒であったためにそれが可能となったのではないか。

無数の島々も含めて、長崎地方には、著名なものから、ほとんど名も無きままに埋もれていった無数の教会堂があった。その一つ一つに苦難や喜びがあったに違いない、という想いだけが通り過ぎていく。けれどもそのような喜びと苦難を、そのままそっと差し出すことができたのが、平凡な大工であった伊勢吉が見た夢だったからではないのか。大明寺聖パウロ教会堂を見て、想うことはそのことである。私たちの明治という基底は、そのような突き離された夢によって引き継がれてきたのだと思う。

※1『長崎の天主堂―その信仰と美』一九七七年・技法堂出版刊）
※2 教会堂の内陣の外に半円形に張り出した部分
※3 現在は長崎市内から橋で結ばれている

大明寺聖パウロ教会堂遠望

大明寺聖パウロ教会堂（5丁目56番地）登録有形文化財

旧所在地：長崎県西彼杵郡伊王島町
建築年　明治12年（1879年）　解体年　昭和50年（1975年）
移築年　平成6年（1994年）　登録年　平成16年（2004年）

明治建築をてらすイルミネーション

きらめき明治村

はじめて「街灯」が灯ったのも、「イルミネーション」のイベントがはじまったのも「明治時代」。本物の明治建築が建ち並ぶ「博物館明治村」で、当時の日本人が経験したであろう、はじめての「明るさ」や「驚き」をご体感ください。

演出上、イルミネーションが消え、会場が暗くなる時間があります。（5丁目の一部エリア）

開催日 2021.1.11（月・祝）までの土日祝
12.24（木）・25（金）も開催　※1.1（金・祝）を除く
※荒天等により開催を中止する場合があります。

点灯時間 日没～19時30分
※開催日によって点灯時間が異なります。

点灯時間 帝国ホテル中央玄関を中心とした「5丁目」エリア、呉服座を中心とした「4丁目」エリア
※16時以降は、「きらめき明治村」会場のみご見学いただけます。

点灯時間やアトラクションの開催時間など詳しくは、明治村公式HPをご覧ください。

ショー必見！

ストーリーの語り部として 明治偉人隊 が出演！

ミュージカルで魅せる！
イルミネーションショー
Shining Light ～歌う帝国ホテル～

20世紀を代表する建築家フランク・ロイド・ライトが設計した「旧帝国ホテル（ライト館）」。その創建から移築までのストーリーや建築的な魅力を伝える、イルネーション・ミュージカルショー。

時間／点灯時間の5分後より開催　会場／帝国ホテル中央玄関

幻影街
～息を吹き返す日本建築たち～

障子に浮かび上がる明治の暮らしの情景や、街を彩るモダンなデザインなど、どこか懐かしくもあり幻想的な街並み。

時間／点灯時間の5分後より開催（障子プロジェクション演出）
会場／呉服座周辺

プロジェクションマッピング
「文明開化～灯りと輝き～」

明治時代の人々の暮らしに大きな影響を与えた「電灯」の輝きをテーマに、白亜の教会堂の壁面を彩る迫力あるプロジェクションマッピング。

時間／点灯時間の15分後より開催
会場／聖ザビエル天主堂
協力／名古屋造形大学

ショー必見！

きらめきクリスマス　会場／聖ザビエル天主堂

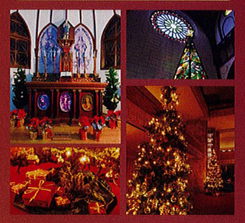
大切な人と素敵な時間をお過ごしください。

ハンドベルコンサート
12/19（土）　時間／①13:30～　②15:00～
出演／金城学院高等学校 ハンドベルクワイア

バイオリン・オーボエ コンサート
12/20（日）　時間／①13:30～　②15:00～
出演／レーヴ・パピヨン

田中佑美（オーボエ）
渡辺優貴（ヴァイオリン）

装いを変える建物たち　会場／村内各所



きらめきグルメ　※売り切れの際はご容赦願います。

11.7（土）▼2021.1.11（日・祝）※休日は土日に

ホットココア
愛くるしい猫のマシュマロ添え ▶

◀きらめきビーフシチュー オムライス
【5丁目】明治の洋食屋 オムライス&グリル 浪漫亭 1,500円

【5丁目】明治の洋食屋 オムライス&グリル 浪漫亭 600円 <数量限定>

きらめきグルメ 食道楽のカレー▼
1日限定20食
※きらめき明治村開催日限定。※15:00までのご提供となります。

野菜たっぷり完熟トマトのミネストローネ▼
【5丁目】「食道楽のコロッケ」の店 400円

ガトーショコラ▲
【5丁目】帝国ホテル喫茶室 ※12～1月は平日定休 600円

【4丁目】食道楽のカフェ 900円

明治村のお正月　日本各地の門松・しめ縄めぐり

期間 2021/1/1（金・祝）～31（日）※門松は11日（月・祝）まで
会場 三重県庁舎、東松家住宅ほか

偉人ガイド／建物ガイド・イマーシブ

偉人自らがゆかりのある建物をご案内する「偉人ガイド」や、明治時代にタイムトリップしたかのような「建物ガイド・イマーシブ」をぜひご堪能ください。

予約受付中！

明治村開村55周年記念

明治偉人隊 ミュージカル「明治村物語」

明治村誕生のドラマ、明治時代に触れる意義をミュージカルでお届けします。
脚本・演出・作曲 / やとみまたはち　振付 / 志乃舞優

開催日 2021/1/9（土）～11（月・祝）2月以降も開催予定
時間 14:00～
会場 呉服座
※入場制限をする場合がございます。

第四高等学校物理化学教室　展示リニューアル

2021年1月中旬（予定）OPEN!!

※イメージ

謎解きアトラクション 明治探偵GAME

番外編 怪盗ジダイ最後の謎見　集合なしのタイムトライアル導入!!
―怪傑からの最後の予告 相対するは、二人の女傑―

大人のためのナゾトキ takarush BLACK LABEL

事前予約制 各日限定300名様

開催日 12/26（土）～2021/2/21（日）の土日祝　および、12/24（木）・25（金）※1/1（金・祝）は除く
受付 第四高等学校武術道場「無声堂」　時間 10:30～15:30
料金 「事前予約制」2,500円※入村料別途必要　前売券発売箇所 e+（イープラス）、PassMarket ほか
主催 博物館明治村、株式会社タカラッシュ ※ご参加にはスマートフォンが必要です。通信料はお客様のご負担となります。

詳しくは、「タカラッシュ!公式サイト」をご確認ください。

【予告】2021年春より 明治探偵GAME 続編開催決定!

各イベントの詳細・お問い合わせ先　https://www.meijimura.com　または 0568-67-0314　※イベントは予告なく変更・中止となる場合があります。

A La Meiji-mura

文明開化の「窓」

1丁目8番地　西郷従道邸

一丁目にある西郷従道邸は、明治十年代に外国からのゲストを迎えるために建てられた洋館です。設計はフランス人技師レスカスだと考えられており、カーテンボックスや建具に使われている金物などはフランスから輸入されたものだとされています。

室内では、意匠が凝った家具やカーテンに目を奪われがちですが、今回は各部屋とバルコニーをつなぐ大きな両開きの「窓」(写真1)にスポットをあててご紹介いたします。この大きな窓は「フランス窓」や「フレンチ窓」(※1)と呼ばれ、多くの場合、テラスやバルコニーに面して設置され、外側には日光を遮り風通しを良くする鎧戸がつけられます。「窓」と名称がついていますが、各部屋とベランダやバルコニーを直接行き来できる出入口としても機能しています。また、名前の通り、フランスで多く見られることが由来だとされていますが、西郷従道邸のような大きなものは、ヨーロッパではまれです(※2)。

写真1　西郷従道邸二階のフランス窓

日本では明治十年代頃までは各地の洋館によく用いられましたが、明治二十年代以降に建てられたものにはあまり見られなくなります。これにはベランダ自体が作られなくなったことが要因とされています。もともと暑さをしのぐためにアジアの熱帯地域で設置されたベランダですが、日本では夏の間は好都合ですが、冬は日差しを遮るベランダは寒く不都合だからです。そのためベランダと各部屋をつなぐフランス窓も不要と考えられたのでしょう。

次にフランス窓の細部に注目してみましょう。西郷従道邸ではフランス窓には両開き扉の中心にドアノブがついています。(写真2)これは戸締り金物とノブが連動している「グレモンボルト」(図1)といい、ノブが90度回転すると、扉の框に伸びたロッド棒が上下に作動してロックがかかる仕組みです。これらの金物は、フランスの錠前業「ブリカール(Bricard)社」製のものと考えられており(※3)、同社が発行したカタログにも西郷従道邸と同じようなドアノブを見ることができます(図2)。また、カタログには美しい装飾が施された建具金物の数々が掲載されており、外国からのゲストを迎える華やかな西郷従道邸の建具金物に同社が選ばれたことも頷けます(図3)。

グレモンボルトの起源や発展については詳らかではありませんが、フランス窓には、このグレモンボルトが用いられることが多いようです。さらに、現在よく知られた「フランス落とし」と呼ばれる扉を固定する金物は、フランス窓についた戸締り金物の派生からその名前が付けられたと考えられているので、グレモンボルトとフランス窓には何かの相関性がありそうです。

今回ご紹介したフランス窓は、文明開化の熱気とともに建物に取り入れられました。明治村にも様々な形の「窓」がたくさんあります。窓や扉は私たちの生活になじみ身近に当たり前にあるものですが、その機能性やデザインに目を向けてみると、生活様式の変化や文化の片鱗が垣間見えてくるかもしれません。

写真2

図2
カタログに掲載された西郷邸と同型と思われるノブ
(出典:図1に同じ)

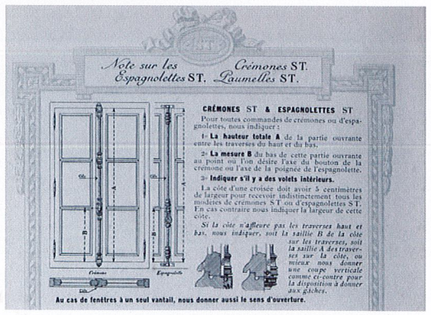


図1　ブリカール社カタログ　グレモンボルトの紹介
(出典:Maison Sterlin,Bricard Succ.rs,fabricants de serrurerie)

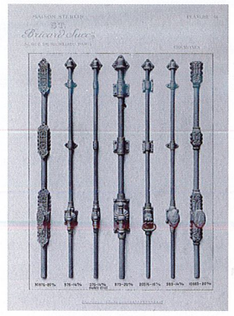


図3　カタログに掲載されているグレモンボルトの数々(出典:図1に同じ)

注※1　フランスでは「la fenêtre à la française」(直訳・フランスの窓)と呼ばれる。

※2　欧米ではそもそもベランダやバルコニーが張り出した建物(コロニアル式)があまり見られないため。

※3　詳細は『明治村だより』八十六号「Ala Meiji—mura」を参照

参考文献
保坂陽一郎　一九八四年『空間の演出—窓デザインヴォキャブラリーとしての展開』彰国社
酒井一光　二〇〇六年『窓から読みとく近代建築』学芸出版社
浜本隆志　二〇一一年『窓』の思想史　日本とヨーロッパの建築表象論』筑摩書房
https://archive.org/details/maisonsterlinbri00bric/mode/2up (二〇二〇年十一月二三日閲覧)

モースが見た日本の住まい

1丁目9番地　森鷗外・夏目漱石住宅

エドワード・S・モース(Morse,E.S.)という人物をご存じでしょうか? モースは、アメリカの動物学者であり、大森貝塚を発見したことでも有名です。研究の一環で明治一〇(一八七七)年に来日し、翌年から二年間、お雇い外国人として東京大学で教鞭をとりました。

モースは、当時の日本人たちの生活や住まいに強い興味を持ち、多くのスケッチを残すとともに、"Japan Day by Day"(邦題:『日本その日その日』)や、"Japanese Homes and Their Surroundings"(邦題:『日本人の住まい』)といった作品を著しています。今回は、『日本人の住まい』から、明治期の典型的な中流住宅である「森鷗外・夏目漱石住宅」を読みといてみましょう。

写真1　台所

東京にある中流階級の家を訪れたモースは、その家の台所について次のように記述をしています。「この台所では土間の部分があって、そこに流し(シンク)を据えてあり、(中略)流しの脇には大きな水甕があり、その手近には手桶と柄杓が見えている」。当時、ガスや水道といったライフラインはまだなく、森鷗外や夏目漱石が暮らしていた頃は、モースの記述のように板間の一段下がったあたりに流しがあったと考えられます(写真1)。また、モースは台所にあった杓子差についても触れており、どの家の台所にも備えられていると述べています。現在、「森鷗外・夏目漱石住宅」の台所にも竹製の杓子差が展示されています(写真2)。モースのスケッチ(図)と同様に竹の節をくりぬき、柱に括り付けて使われていました。

モースが日本人の住宅を語る際、「簡素」という語を用いるとともに、住宅内部の造りに関しては各所に芸術的な意匠が施されていると指摘し、日本人の芸術的センスを称賛しています。特に欄間について、モースは「きわめて自然に装飾の才能を発揮させる」場所だと認識していたようです。森鷗外・夏目漱石住宅内部にも、一ヵ所、欄間の装飾があります(写真3)。

この欄間は美しい竹の透かし彫りで、昼と夜とではまた違った魅力を発揮するのをご存じでしょうか。夜間、森鷗外・夏目漱石住宅をご覧いただける機会は多くないのですが、夜になると、室内の灯りが差し込み、壁に光の竹が浮かび上がるのです(写真4)。昼と夜それぞれの趣を楽しめるようにという職人の思いがあったのかもしれません。モースが称賛した日本人の芸術センスが光る欄間の一つといえるでしょう。

台所に、竹の杓子差、簡素な造りの住まいに彩りをそえる欄間の意匠——。森鷗外・夏目漱石住宅からは、モースが心惹かれた明治期の日本人の住まいの姿を見て取ることができるのです。

写真2　杓子差

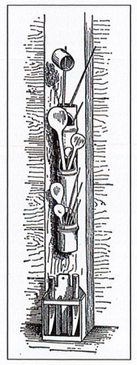


図　モースのスケッチ(『日本人の住まい』より転載)

写真3 竹の透かし彫りの欄間

写真4　欄間から差し込んだ灯りが光の竹を描いている

参考文献
E・Sモース著　齋藤正二・藤本周一訳　二〇〇五年『日本人の住まい』八坂書房
E・Sモース著　石川欣一訳　一九七一年『日本その日その日3』平凡社
博物館 明治村　二〇〇六年『森鷗外・夏目漱石住宅及び神戸山手西洋人住居保存修理工事報告書』博物館 明治村